

龍ヶ崎市
まち・ひと・しごと創生
総合戦略
(案)

平成27年9月

茨城県龍ヶ崎市

龍ヶ崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定の背景

我が国においては、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力のある社会を維持していくことが喫緊の課題となっています。

このため国は、まち・ひと・しごと創生法(平成 26 年法律第 136 号。以下「創生法」という。)を制定するとともに、国民一人ひとりが夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営むことができる地域社会を形成すること、地域社会を担う個性豊かで多様な人材について、確保を図ること及び地域おける魅力ある多様な就業の機会を創出することを一体的に推進(以下「まち・ひと・しごと創生」という。)するとして、まち・ひと・しごと創生長期ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略を策定しました。

本市においては、平成 22(2010)年をピークに人口が減少傾向に転じ、少子高齢化の進行も予測されることから、持続可能な地域経営の基盤を確立することが課題となっています。また、創生法では、地方公共団体に対し、まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に努めるべき旨が規定されています。

このため本市では、人口の動向などを分析し、人口問題に関する認識を共有して、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示すること(以下「人口ビジョン」という。)、及び創生法第 10 条第 1 項の規定により本市域の実情に応じたまち・ひと・しごと創生に関する施策についての基本的な計画(以下「総合戦略」という。)を策定し、施策を総合的かつ計画的に実施することとしました。

この「龍ヶ崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、本市における人口の現状と将来展望を提示する「龍ヶ崎市人口ビジョン」を踏まえて、平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 年間の基本目標、施策、及び取り組むべき事業についてとりまとめたものです。

■龍ヶ崎市の特性

- ・龍ヶ崎市は 1990 年代の急激な人口増加の時期を経て、今後は人口減少に転じることが予想されている。
- ・全国の市区町村と比較すると、人口減少の度合いは小さく、自然増減をみると、従来は、わずかではあるが出生数が死亡数を上まわっていたが、最近では死亡数が出生数を上まわるようになってきた。
- ・社会増減をみると、従来は大きく転入超過であったが徐々に減少し、最近では転出超過に転じている。社会増減の年齢別の傾向は、住宅購入層の中心である 30 代、40 代及びその子供の年代である 0～14 歳、大学入学期にあたる 10 代後半が転入超過である。
一方、就職、結婚期の 20 代の転出超過が顕著であり、50 代以降は微増となっている。
- ・地域別の傾向は、東京都、千葉県へは大きく転出超過である。
一方、県内では、他の常磐線主要駅や TX 沿線の都市には転出超過であるが、県南東部の市町村などからの転入超過により、県内の移動は転入超過である。
- ・出生率は、全国と茨城県はほぼ同等な値(2012 年は 1.41)で推移しているが、龍ヶ崎市はやや低めの値(2012 年は 1.21)で推移している。
- ・地区別人口をみると、ニュータウンの龍ヶ岡地区や北竜台地区では人口減少の度合いはわずかであるが、それ以外の地区は大きく人口減少が進んでいくことが予想され、旧市街地などは高齢化も高い。
- ・ニュータウンの分譲は峠を越え、新築件数は少なくなっている。
- ・都心から 45km の通勤圏にあり、水や緑の自然環境が豊かである。

人口の将来展望

本市の総人口は、平成 22(2010)年の 80,334 人をピークに減少傾向にあり、国の研究機関の手法と条件で推計すると、平成 52(2040)年には 68,159 人、平成 72(2060)年には 53,204 人になると見込まれています。

合計特殊出生率は、2013 年は 1.29 であり、国や茨城県の値を下回っており、近年は死亡数が出生数を上まわるようになり、自然減へ移行しております。また、社会増減をみると、これまで転入超過でずっと推移してきたものが、近年では若干であります。転出超過の傾向が見られるようになってきました。このように人口の増減を左右する自然増減と社会増減の両方でマイナス傾向になっており、今後、人口減少が進行することを示しております。

そこで本市の人口ビジョンにおける将来展望は、人口減少に対するさまざまな施策や事業を展開することを前提に、以下の目指すべき将来の方向性を掲げ、合計特殊出生率は平成 57(2045)年に 2.10 に上昇するとともに、人口移動は、20 歳代の転出超過は 20%減り、0 歳代と 30 歳代の転入超過が 20%増えるものと仮定して、将来人口のシミュレーションを行いました。

《目指すべき将来の方向性》

- ①若者・子育て世代が安心して結婚・子育てできる環境を創出する
- ②まちの住みよさの向上・PRにより移住・定住を促進する
- ③少子高齢型社会に対応した地域活力を創造する

その結果を踏まえて、

目標人口：2060年 64,200

老年人口比率：2060年 33.7%

という人口の将来展望を設定しました。国の推計と比べて平成 72 年(2060)年において総人口で約 11,000 人多く、老年人口比率で約 7%低い将来展望となります。

基本目標と施策

人口ビジョンで掲げた目指すべき将来の方向に基づき、目標人口を達成するために、総合戦略では次の4つの基本目標を掲げて、人口減少を抑制するとともに、年齢構成の改善を目指します。

基本目標	対応する施策
A子育て日本一を目指したまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ①子育てしやすい環境づくりの総合的支援「子どもと住みたい龍ケ崎」の実現 ②出会い・結婚・妊娠・出産・子育ての各ステージに対応した切れ目のない支援 ③子育て世代への経済的な支援
B住んでみたいと感じるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ①住みよいまちづくりによる移住・定住化の促進 ②通えるまちづくりによる移住・定住化の促進 ③特色ある教育環境の創造 ④大学等と連携した人材育成と生涯学習・生涯スポーツの推進
C地域力を活かしたしごとづくり	<ul style="list-style-type: none"> ①産業、金融、行政が一体となった総合的支援体制の整備 ②若者、女性、アクティブシニア層を中心とした人材の育成・還流・定着の支援 ③知名度アップ、地域ブランド確立等による付加価値の向上
D地域がつながる、安全・安心なまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ①地域コミュニティを核とした地域力の向上 ②市民主体の地域防災の充実 ③既存ストックのマネジメント強化 ④高齢者の「健幸」力の向上

基本目標：A 子育て日本一を目指したまちづくり

(1) 基本的方向性

- ・「ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」の2つの重点施策の1つである「子育て環境日本一を目指したまちづくり」に沿って子育て支援関連の施策・事業を実施しているが、整理統合するとともに、新たな事業を展開することで、人口減少を抑制し、子育て環境日本一を目指したまちづくりを推進します。
- ・出生率の向上については、国の対策と歩調を合わせて実施します。
- ・充実した子育て環境により、子育て世代や子育て予備軍の転出抑制、転入促進を目指します。

(2) 数値目標

対象項目	ベース値 (H26)	5年後数値目標
合計特殊出生率		1.43
待機児童数		0人

(3) 施策 と KPI

施策①：子育てしやすい環境づくりの総合的支援「子どもと住みたい龍ヶ崎」の実現

(1) KPI【重要業績評価指標】

対象項目	ベース値 (H26)	5年後の目標
待機児童数		
妊婦基本健診受診率		
乳幼児健診平均受診率		
子育て支援センター利用者数		
駅前こども送迎ステーション利用者数		
生産年齢人口増加数 (社人研推計等との対比)		
子育てしやすいと感じる人の割合		
安心して医療機関を利用できると感じる人の割合		
男性の育児休業取得率(市内主要企業等)		
移動式赤ちゃんの駅の貸出件数及び必要度・満足度		
たつのご育て応援の店の店舗数		

(2) 主な事業

事業	内容	実施主体
さんさん館 子育て支援拠点機能強化	さんさん館において、子育て支援の拠点機能を強化	こども課
放課後子ども支援（学童保育、学習支援等）	保育需要や保護者のニーズに対応した適正なサービス量を確保し学童保育の充実を図る	こども課 生涯学習課
駅前こども送迎ステーションの設置など保育環境の向上	送迎の利便性の向上や延長保育の拡充などによる「働き、育てる」子育て世代の支援	こども課
子育て・しごと両立支援（ワーク・ライフ・バランスの実現）	市内民間企業と情報共有や協働を図り、子育て協力事業者の拡大を図る	人事行政課 市長公室 商工観光課
小児救急医療等などの医療体制の充実	休日・夜間における小児救急の医療を確保するため、小児救急医療輪番制の充実を図る	健康増進課
乳幼児等の外出支援策の充実	子どもや赤ちゃんが安心して外出できる環境整備を図る（たつのこ育て応援の店、移動式赤ちゃんの駅等）	こども課
子育て環境日本一PRのためのイベント開催	「こどもまつり」など特長的なイベントを通してPRを図る	こども課

施策②： 出会い・結婚・妊娠・出産・子育ての各ステージに対応した切れ目のない支援

(1) KPI【重要業績評価指標】

対象項目	ベース値（H26）	5年後の目標
出会いのサポートによる婚姻成立数		
「龍ヶ崎市版ネウボラ」の利用者数		
年間の出生数		
支援ニーズの高い妊産婦への支援実施割合		

(2) 主な事業

事業	内容	実施主体
婚活力向上、出会いのサポート	結婚に前向きな方々の出会いの場を提供や婚活力向上に向けたセミナー等の実施	商工観光課
不妊治療助成	男性を含む不妊治療に対する助成の制度の実施	健康増進課
子育てコンシェルジュ、（仮）子育て包括支援センターなど「龍ヶ崎市版ネウボラ」の創設	子育てについて保護者からの相談に応じ、必要な情報提供やアドバイスを提供	こども課

施策③：子育て世代への経済的な支援

(1) KPI【重要業績評価指標】

対象項目	ベース値（H26）	5年後の目標
子育て世代の住宅取得補助件数		
第3子の出産数		
子育て世代の経済的負担軽減施策の満足度		
若者（20～34歳）の就業率		

(2) 主な事業

事業	内容	実施主体
若者・子育て世代住宅取得補助	若者・子育て世代等の住み替えを支援し、本市への定住を促進	都市計画課
医療費助成（マルフク）拡充	子育て世代の経済的支援と医療の安心を確保するため、小児マルフクの拡充	保険年金課
多子世帯応援事業	経済的負担の軽減の他、様々な支援策の組み合わせにより多子出産を総合的に支援	こども課 学校給食センター
就園奨励・支援の拡充		こども課

基本目標：B 住んでみたいと感じるまちづくり

(1) 基本的方向性

- ・都心から 45km の距離にあり通勤圏でありながら、豊かな自然を有する龍ヶ崎市。この立地的優位性を活かし、快適な生活環境と豊かな自然環境を有する魅力を発信し、地域活性化につなげていきます。
- ・佐貫駅へのアクセス向上など、市内交通網の拡充により「都心に通えるまちづくり」を推進します。
- ・住環境を構成する重要な要素である教育に着目し、大学との連携などによる特色ある教育環境、生涯学習環境を構築します。
- ・中心市街地の活性化や観光振興により賑わいを創出し、交流人口の増加を目指します。

(2) 数値目標

対象項目	ベース値 (H26)	5年後数値目標
純移動数		300人
年間観光客入込数		

(3) 施策 と KPI

施策①：住みよいまちづくりによる移住・定住化の促進

(1) KPI【重要業績評価指標】

対象項目	ベース値 (H26)	5年後の目標
入居した空き家数		
地域ブランド調査 (居留意欲度ランキング)		
地域ブランド調査 (観光意欲度ランキング)		
20～49歳の社会増数		
県観光客動態調査における入込客数		
新規転入世帯数		

(2) 主な事業

事業	内容	実施主体
既存ストック（空家等）を活用した住み替え・定住を促進する仕組みづくり	空き家等を活用し、若者・子育て世代等の住み替えを支援し、本市への定住を促進	都市計画課
近居・世帯同居支援などによる子育て世代等の定住促進	近居・世帯同居の際の助成や住宅の高機能化に係る費用を助成し、子育て世代の定住促進を図る	都市計画課 環境対策課
新たな商業拠点形成の検討	竜ヶ崎駅北地区を新都市拠点開発エリアと位置付け、高度な土地利用を目指す	都市計画課
中心市街地の活性化	中心市街地におけるイベントの開催や創業支援により賑わいを創出し、交流人口の増加を図る	商工観光課
龍ヶ崎コロッケ日本一事業	龍ヶ崎コロッケの魅力をPRし、知名度を高めることで賑わいを創出し、交流人口の増加を図る	商工観光課
観光の振興	歴史的・地域資源と新たな地域資源を組み合わせることで、交流人口の増加を図る	商工観光課 生涯学習課

施策②：通えるまちづくりによる移住・定住化の促進

(1) KPI【重要業績評価指標】

対象項目	ベース値（H26）	5年後の目標
公共交通利用者数（バス全種類）		
市内公共交通について満足している市民の割合		

(2) 主な事業

事業	内容	実施主体
市内交通網（バスネットワークなど）の拡充	コミュニティバス、デマンド的乗合バス、深夜バス等の運行の充実を図るなどして、市内交通網を拡充	交通防犯課
首都圏への時間距離の短縮	交通結節点としての機能強化を図るとともに、佐貫駅前ロータリー改修などによる玄関口に相応しい環境整備を推進する	都市計画課 施設整備課

施策③：特色ある教育環境の創造

(1) KPI【重要業績評価指標】

対象項目	ベース値（H26）	5年後の目標
学習支援員の児童・生徒に対する割合		
サマースクール参加者数		
スポーツテストにおける●評価以上の割合（●年生）		
全国学力・学習状況調査平均正答数（全国平均との比較）		
ボランティア協力学生数		

(2) 主な事業

事業	内容	実施主体
学習支援員制度の拡充	学習支援員制度を拡充し、学力の向上を目指す（学力の底上げ、トップセミナーなど）	指導課
多様な学習機会の提供	サマースクール、放課後学びのサポートなどの実施	指導課 教育総務課 生涯学習課
龍・流連携の拡充	流通経済大学との連携を強め、小中学校の教育を充実させるとともに、児童、生徒、学生の移動手段となるバスの確保を図る（龍・流バスなど）	企画課 指導課
小中一貫教育の推進		指導課 教育総務課

施策④：大学等と連携した人材育成と生涯学習・生涯スポーツの推進

(1) KPI【重要業績評価指標】

対象項目	ベース値（H26）	5年後の目標
市民大学講座の開講数		
スポーツイベントの参加者数		

(2) 主な事業

事業	内容	実施主体
「スポーツ健康都市」を目指した生涯スポーツの推進		スポーツ推進課
トップアスリート育成		スポーツ推進課
市民大学講座・市民講師の活用	大学資源や市民の専門家を活用することで、市民ニーズが高く専門性の高い講座を開催	企画課
スポーツによる交流人口増加	龍・流連携の活用、大規模大会やその事前合宿地の誘致などにより交流人口の増加を図る	スポーツ推進課 企画課
新たな奨学金制度の創設		スポーツ推進課 企画課

基本目標：C 地域力を活かしたしごとづくり

(1) 基本的方向性

- ・これまでの産学官のみならず、金融機関などとの連携を視野に入れながら、地域産業の維持・強化を図り、U I J ターンを促進します。
- ・女性の雇用機会拡大、多様な就業形態を創出します。
- ・高齢化が進むことで必然的に元気な高齢者も増加していくことを踏まえ、そうしたアクティブシニア層の活躍の場、雇用の場を創出します。
- ・牛久沼などの自然や歴史等の地域資源を活かした雇用を創出します。

(2) 数値目標

対象項目	ベース値 (H26)	5年後数値目標
就業者数		?人

(3) 施策 と KPI

施策①：産業、金融、行政が一体となった総合的支援体制の整備

(1) KPI【重要業績評価指標】

対象項目	ベース値 (H26)	5年後の目標
マッチングによる就業者数		
年間起業数		
市内高齢者就業率		
市内事業所による若者雇用創出数		
市内事業所の従業員数		
事業者あたり製造品出荷額		
有効求人倍率 (竜ヶ崎公共職業安定所管内)		
企業誘致奨励金に係る新規雇用人数		

(2) 主な事業

事業	内容	実施主体
産業支援にかかる窓口の一元化 (産業と金融のマッチング)		人事行政課 商工観光課
創業支援、創業後のステップアップ支援	創業を支援するとともに、奨励金の交付や事業資金の融資あっ旋などを通じて、市内に立地する企業を支援	商工観光課
企業誘致策の充実	つくばの里工業団地周辺や龍ヶ岡市街地の未利用地を視野に、企業誘致を推進するなどして、起業誘致策の充実を図る	都市計画課 商工観光課
チャレンジショップ制度などの構築	空き店舗等を活用したチャレンジショップの実施	商工観光課
市の玄関口である佐貫駅を起点とした賑わいの創出	佐貫駅周辺地域を中心とする今後のまちづくり戦略の基本構想を踏まえ、佐貫駅を起点としてにぎわいの創出を図る	企画課 都市計画課 外
Made in 龍ヶ崎の応援	特産品等の創出とPRによる販路拡大を図る	商工観光課 農業政策課 シティセールス課

施策②：若者、女性、アクティブシニア層を中心とした人材の育成・還流・定着の支援

(1) KPI【重要業績評価指標】

対象項目	ベース値 (H26)	5年後の目標
新規就業者数		
高齢者の新規就業者数		

(2) 主な事業

事業	内容	実施主体
人材確保が課題の中小企業や農業等において、就職希望者と事業者双方への支援		商工観光課
若者のスキルアップ支援（保育士修学資金貸付など資格取得など）		こども課 外
高齢者の雇用の充実（シルバー人材センターの認知度・機能向上など）		高齢福祉課
ビジネス手法による地域貢献事業への参入促進支援		商工観光課

施策③：知名度アップ、地域ブランド確立等による付加価値の向上

(1) KPI【重要業績評価指標】

対象項目	ベース値（H26）	5年後の目標
市内映画等撮影件数		
地域ブランド調査 （情報接触度ランキング）		
道の駅開設記念イベント集客数		

(2) 主な事業

事業	内容	実施主体
牛久沼や道の駅を核とした回遊性のある観光ルート・魅力あるスポットの開発	牛久沼に休憩ポイントの設置や様々な分野でのイベント開催など、牛久沼周辺の活用と整備を進めるとともに、本市の特産品の販路拡大と地域情報の発信機能の強化に向けた道の駅を設置し、牛久沼や道の駅を核とした回遊性のある観光ルート・魅力あるスポットの開発を図る	商工観光課 都市計画課 企画課 シティセールス課
伊達藩飛び地などの歴史背景・遺産を活用した商品開発や付加価値の向上		商工観光課 農業政策課 シティセールス課
「大学のあるまち」をコンセプトとした地域ブランドの開発（龍ヶ崎ブランドアクションプランによる）	策定した龍ヶ崎ブランドアクションプランの実行と並行して、「大学のあるまち」をコンセプトとした地域ブランドを開発し実行	シティセールス課
地域資源のPR	地域資源や特産品等をPRする事業を実施し、認知度向上や移住促進、交流人口の増加を図る（シティセールスプラン、FCの推進、道の駅の整備）	シティセールス課 農業政策課

基本目標：D 地域がつながる、安全・安心なまちづくり

(1) 基本的方向性

- ・「ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」の2つの重点施策の1つである「市民活動日本一を目指したまちづくり」に沿って、地域の自主・自立に配慮した住民自治組織の結成、運営を支援するとともに、自助、共助の向上による地域防災力の強化を図ります。
- ・新たな社会資本整備にかかる費用を抑えつつも、望ましい住環境を維持、改善していくために、ストックマネジメントを活用した既存施設の統合等を推進します。これとともに、市内交通ネットの充実による時間距離短縮によるコンパクトシティ化を目指します。
- ・高齢者が「健幸」（健康かつ生きがいを持ち安心安全で豊かな生活を営むこと）な長寿社会を目指します。

(2) 数値目標

【数値目標】

対象項目	ベース値（H26）	5年後数値目標
自主防災組織の組織化率		?%
コミュニティバス利用者数		?人

(3) 施策 と KPI

施策①：地域コミュニティを核とした地域力の向上

(1) KPI【重要業績評価指標】

対象項目	ベース値（H26）	5年後の目標
地域コミュニティ設立数		

(2) 主な事業

事業	内容	実施主体
地域力のアップに向けた中核的な地域コミュニティの推進	住民自治組織を主体とした地域づくりを進めるとともに、地域力の向上を図るため、コミュニティセンターを単位とした中核的な地域コミュニティの形成に向けた取組を推進	市民協働課

施策②：市民主体の地域防災の充実

(1) KPI【重要業績評価指標】

対象項目	ベース値（H26）	5年後の目標
消防団員数（もしくは充足率）		
防災士数		

(2) 主な事業

事業	内容	実施主体
地域防災の担い手となる消防団の充実強化	地域における防災体制の強化に向けて、地域防災の担い手となる消防団の充実強化を図る	危機管理室
地域防災の担い手のリーダーの育成	地域における防災体制の強化に向けて、防災士など地域防災の担い手のリーダーの育成を図る	危機管理室

施策③：既存ストックのマネジメント強化

(1) KPI【重要業績評価指標】

対象項目	ベース値（H26）	5年後の目標
既存ストックのマネジメント方策の策定		
交通ネットワーク最適化計画の策定		
公共施設再編成フォーラム参加者数		

(2) 主な事業

事業	内容	実施主体
効果的、効率的な既存ストックのマネジメント方策を策定	空き家、空き店舗、公共施設等を含む既存ストックについて、マネジメントを策定し推進する	資産管理課 都市計画課 交通防犯課 商工観光課
交通ネットワークで4市街地等をむすび、公共施設等を含む市全体の最適化を検討	コミュニティバス等の市内交通ネットワークの充実を図り、時間距離の短縮によるコンパクトシティ化の実現	都市計画課

施策④：高齢者の「健幸」力の向上

(1) KPI【重要業績評価指標】

対象項目	ベース値（H26）	5年後の目標
特定健診受診率		
防犯パトロール実施数		

(2) 主な事業

事業	内容	実施主体
介護予防・認知症予防など高齢者の心身両面の健康づくりを推進	健康づくり教室や介護予防事業を積極的に展開し、心身両面の健康づくりを推進	健康増進課 高齢福祉課
地域での見守り、助け合い、生きがいづくり活動を支援		市民協働課 交通防犯課 高齢福祉課 外
子ども・高齢者交流事業		こども課 高齢福祉課 教育総務課 指導課
NPOなどの活用	「地域おたすけ隊」などの創設、活動支援	市民協働課 高齢福祉課